



1月号 第39号

発行日：2019年12月20日

発行：虹技株式会社

環境安全管理部 環境管理G

姫路市大津区勘兵衛町4丁目1

TEL 079-236-3224

12月は

何だか忙しいですね。正月を迎えるために、すべてが前倒しで進むし、忘年会やら、年末あいさつやら通常にプラスな行事が増えるからですかね。何しろパタパタと忙しい。それに引き換え、森は人間界のせわしなさなどどこ吹く風。落葉のこの時季は静寂に包まれています。

タイトルバックは、コノハウチワカエデの紅葉。気候のせいも、今年の紅葉はあまり鮮やかでないような気がします。イロハモミジも赤く染まる前に葉を落としてしまったようですし、山全体を俯瞰しても赤・黄色ではなく、茶色っぽかったように思います。そんな中、こちらコノハウチワカエデは今年のゆめさきの森公園で紅葉“Best 1”の美しさでした。



こちらは、日本では一番小さく、スズメほどの大きさのキツツキ「コゲラ」です。木に真ん丸な穴を上手に空けて巣にします。上の写真はゆめさきの森公園で鳴いているところを撮ったものですが、一昨年あたりに虹技東工場正門前のイチヨウの樹に巣を作っているのを見つけました。技術部の佐藤部長が、その

樹の傍を歩いて食堂に向かう度に「目があう」と言っ
ては、嬉しそうにされていたのを思い出しました。

愛らしい姿かたちのわりに「ギー、ギー」と鳴きちょっとだみ声。くちばしで樹を強くつついて音を出すキツツキ特有の「ドラミング」もちゃんとします。工場ではドラミングを聞いた記憶はないなあ。

下の彼は、みんなの嫌われ者「カマドウマ」、別名は「便所コオロギ」。コオロギといっても羽もなく、鳴きもしません。バッタの仲間だそうですが、暗くてじめじめとした陰気な場所に生息しています。昔の台所にあったかまどや、汲み取り式便所の近くにわさわさと出現することからそう呼ばれています。雑



食性で、夜中に徘徊し、昆虫の死骸や野菜くずなどを食べて暮らします。

姿かたちも不気味感が漂いますが、そのジャンプ力は半端なく、見つけた人をギョッとさせてしまいます。負の条件が重なり、まるでゴキブリのように扱われ駆除対象になっていますが、実はそんなに害はありません。ただ、古い書物や和紙を食べちゃうらしいので、文化財にとっては重大な害虫になるそうです。ちょっと、かわいそう。

環境爺(びびい)のつぶやきコラム



ぶつぶつ

わしゃ最近、怒っておる。マドリードでCOP25が開かれたこともあり、新聞紙上は環境関連記事のオンパレードじゃ。環境関連報道は良いんじゃが、問題はその内容じゃ。今回のCOP25では、これといった目玉の採択宣言はされずに閉会。しかも、先月25日にはCO₂濃度が過去最高を更新したと報道されたにもかかわらずじゃ。日本は会期中に2回も化石賞なる不名誉な賞をもらい、かの小泉環境大臣はトンチンカンな会見やら演説をぶちかまし、少なからず笑いものになってはいまいか。



我が国は、CO₂削減が叫ばれてから、何の努力もしないまま、原発に頼ってCO₂を削減してると言い放ってきた。それが事実じゃ。だが、それさえも嘘で、実際はCO₂は増え続け、神風リーマンショックにあおられ景気が減速したことでCO₂が減り、国際公約をかるうじてクリア。その直後の東北地震で原発はストップ。どうしようもないほどCO₂を排出しまくる国となっておる。トランプ氏みたいにCO₂削減はしないと切り切る方が潔いかもしれん。

小泉大臣は、さらに国民に危機の「目覚め」を促していく時期が来た、などと言っておった。**何か違う!** CO₂削減に関して長年、何の数字も達成してこなかった国は世界で日本だけじゃ。お役人たちはあれもやった、これもやった、努力はした、と口々に言うが、数字が伴っていない。これが民間なら数字が命じゃ、努力や活動実績はいらん。数字を示さねば。

そもそも、環境大臣ほどのトップは、ムーンショット(びっくりするような高い目標)を打ち上げねばならん。自分が大臣になって今ごろ、多くの自治体がCO₂ゼロ宣言に参画してるなどと公言しておるが。宣言するだけなら簡単じゃ。自治体の言う事を鵜呑みにしとっちゃいかん。実績を上げない自治体には厳しく対応せねばならん。民間にも相應の措置を取らねば。入札条件に炭素排出量を加えるとか。

日本が世界の笑いものになっておることを、トップが「目覚め」て、ムーンショット的対応を宣言すべきじゃろう。

もう一つわしが気になるのが、グretaさんへの心無いバッシングじゃ。そして、それを面白おかしく伝えるネットニュースには呆れて悲しくなる。観たくなくてもポータルサイトのトップに出ておるからスルーできんで、ついつい覗いてしまう。ある記事では、彼女は150年前から時空を超えてやってきたタイムトラベラーなんじゃと。フェイクな内容に腰の力が抜けそうじゃ。

この国のトップのレベルと、国際機関には、何を期待してよいものかと。グretaさんの意見に賛同し集う若者たちが、世界規模で何かムーブメントを起こさんとダメじゃないか。しかしながら、今の日本の若者にゃ、そこまでの見識や行動力があるのか、わしは気になるところじゃ。

まだ、わしをいら立たせるのが、マスコミのSDGsに対する扱いじゃ。SDGsは今年の3月号で解説をしたから覚えてくれておるかな。何、忘れたと!? オーマイガッじゃ。ピコ太郎の話と一緒に触れたぞ。虹技ホームページの虹の森通信バックナンバー第17号で確認しておくれ。

SDGsの報道の何がわしをいら立たせるのかというと、SDGsをあたかも環境問題であるかのように扱い、宣伝していることじゃ。SDGsの基本は「世界を変えるということ」で、その行動基準には当然、優

先順位がある。まずは貧困の解消じゃ。世界中で8億人とも9億人とも言われる人が、まともに衣食住を確保できない貧困を強いられておる。次が飢餓撲滅、そして医療と福祉の拡充、教育の充実とジェンダー（性差）の平等と続くこれらの国際目標じゃ。だからメイン目標は環境ではないんじゃない。貧困の原因が紛争なのか、経済格差なのか、気候変動なのか。何しろさっき述べた数の人々が貧困にあえいでいる現状を解消することが一大目標なわけじゃ。17ある目標のほとんどが、この貧困解消に関することであり、純粋な環境目標は気候変動対策と、海の豊かさ保全、森の豊かさ保全の3つだけで、おまけのようじゃ。

日本経済新聞

それなのに、「エコプロ」という日本経済新聞社と産業環境管理協会が主催する環境フェアでは、前面にSDGsを押し出し、大っきな広告記事を出しておる。そこにはSDGsをごくごく些細な環境問題解決目標であるかのようにしておる。こりゃ勘違い・間違いというより、強い意志を持ったマスコミによるあおりの様にもかんじる。それが証拠に、「SDGs入門」だとか、「SDGs経営のすべて」なんて本がじゃんじゃか売れておるそう。SDGs経営大賞てなハテナ？なランキングも突如現れ、受賞者はCO₂削減に積極的に取り組んだんだと。貧困解消への貢献は一体どないなととるんじゃ！？審査対象から外れとるのか？？？



SDGsに取り組むということは、具体的には政治によるODA（政府開発援助）、つまりJICAなんかの国際協力活動をパワーアップさせる事。民間で言うと、経済団体等がイニシアチブを發揮し、貧困国への投資や技術供与を促進させる事なんかをもっと積極的に考えなくちゃいかん。もちろん持続性が大事だから、寄付だけではダメじゃ。日本と貧困地域とにウインウインの関係性を構築しなけりゃならん。これには相当な知恵と覚悟と高い志が必要じゃ。

先日、アフガニスタンで銃撃により命を落とした中村哲さんは、まさにSDGsの理念を一身に背負って身を捧げた人そのものじゃ。「国境なき医師団」といって、将来の生活の安定が確約された医師という資格を持ちながら、自らの意思で医療を必要とする貧困地域や紛争地域に出向いて活動する、現代に生きるまさにヒーローたちじゃ。ものすごくかっこいい！！民間からの寄付が95%で運営され、世界中がこの団体に拠出しておる。わしもわすかじゃが毎月納めさせてもらうとるんじゃ。これぞSDGs「持続可能な開発目標」の活動じゃ。



ところで、「環境カウンセラー」なる制度をご存知かな？環境

省の審査に合格すれば登録されるというので、興味本位で応募したんじゃ。「事業者部門」と「市民部門」とに区分けられ、その書類審査を合格し、先日、面接審査を受けてきた。市民部門は始終和やかな対応じゃったが、事業者部門の面接官が少々違った。わしの審査書類の内容に「違和感がある」とケチがつき、それなら書類審査で落とさんかいと思いつつも、ぐっとこらえたが、どうもこのお役人の言うことにハテナ・ハテナ？と感じつつ。もしや、民間がISOを取得維持する大変さや、廃棄物を処理する我々民間の苦勞は分からんかな。現場の実際を、現状を、分かろうとせんようにしか聞こえなかった。

とどめに「SDGsの環境課題について知っていることを述べよ」と言われ、わしゃ、少々頭が混乱しおって、これは環境の面接じゃないのか？貧困問題と何の関係があるのか？予想外の質問に貧困課題しか思い浮かばぬ。気を取り直し、ようやく「清浄な水とトイレ」と答えるも、くだんの面接官はあきれ顔。「もう結構です」と。もう結構はこっちの方じゃ。マスコミなどに惑わされず、問題に本気で取り組んでほしいと思った。何かにかき立てられたように、帰ってから環境カウンセラー登録名簿を閲覧してみたが、登録から20年以上も経過した御年80才を超える高齢者ばかりが目立ち、これらの更新や若者へのアプローチは一体どうなっておるのやらと、首をかしげずにはおれなかった。やれやれ、お役人のすることはいつもこうじゃ。

ぶつぶつ

虹の森なう

さて、今回は、来春にシイタケの植菌をするためのホダ木を切る作業がメイン。活動取材に訪れた緑化推進協会の皆木さんによるチェーンソーの手入れ方法と安全作業についての講話の後、いざ虹の森へ。毎年、斜面の下から伐ってるのでどンドン切る場所が上に移動し、今回は結構急な斜面での作業でスリル満点です。急斜面での伐木はコントロールが難しく、思ったところに倒れてくれず隣の木に寄りかかってしまうと引き倒すのにとっても苦労するのです。ここでも、皆木さんが倒木方法を丁寧にアドバイス。手取り足取りレクチャーされたおかげで何とかケガ無くホダ木を伐り倒すことが出来ました。どうです？この力の入った共同作業。



公園始まって以来の不作といわれたシイタケ栽培ですが、作業終わりに、虹技の栽培地を覗いてみたらチラチラと生えてきているではありませんか。皆さんにお配りするほどもなく、私が収穫して味見をさせてもらいました。やっぱり、うまい！！菌の弱い人は噛み切れないほどの厚み。来春をお楽しみに。

良い子のための お餅つき体験

ゆめさきの森公園で以前に、ちびっ子たちが手植えたもち米が収穫できたので、いよいよお餅つきです。虹技では毎年1月の成人の集いに食堂でお餅をつくので、お父さん方は慣れていますが、お母さんや子供さんたちは初めて体験するお餅つきに、大盛り上がり。写真は、山本社長の餅つき試技の様子です。蒸したもち米がみるみるお餅になっていくのをみんな興味深く見えています。あらかたつけたところで、子供たち



の出番。順番に子供用の杵を持って担ぎ上げ、力を込めてつきます。みんなニコニコ顔です。お母さん方も参戦。「杵、おもっ！」と言いながらも力強くついてくれました。ついた後は、試食タイム。ボランティアの方々があんこ、きな粉、砂糖醤油で絡めた餅を用意してくれ、お腹いっぱい食べました。ごちそうさま。ついたお餅はお土産でお持ち帰り。子供たちのお土産を持つ顔もニコニコでした。

第52回 森林整備の案内と参加者募集

今回は伐り倒したコナラの木を玉切りして山から下ろす作業がメインです。木を下すことが出来たらエリア拡大の雑木切りと、伐り倒したスギ・ヒノキの皮むきを進めたいと思います。よろしく。

日時： 1月11日(土) 10:00~15:00 (9:30公園駐車場集合)

場所： 県立ゆめさきの森公園(虹の森)

申し込み： 参加希望者は、環境管理G 的場まで、またはお近くにいるメンバーまで連絡ください。
的場ケータイ：090-5979-8385

メンバーの方はショートメール等で参加の可否を連絡いただければありがたいです。

初めて参加される方は、保険に加入しますのでお名前、住所、ケータイ番号を連絡ください。

※小雨は決行。天候が荒れそうな場合は前日夕方に、中止のメールを携帯に送信いたします。